

100年の歴史を胸に刻み未来に継承できる国づくり・
地域づくりに全力を尽くす

全国町村会長 荒木 泰臣

本日ここに、全国町村会創立100周年記念式典を挙げるにあたり、全国の町村長を代表して式辞を申し上げます。

磯崎内閣官房副長官、金子総務大臣には、政務ご多端の折にもかかわらずご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、遠路ご参集いただきました各都道府県代表の町村長の皆様、そして今回、出席者を絞らざるを得なかった関係で、地元からオンラインでご参加いただいている全国の町村長の皆様に心から感謝申し上げます。

さて、全国町村会は、全国の町村現場からの小学校教員俸給国庫負担金の増額運動が端緒となって、大正10年2月、全国の町村長1万2千余の唯一の連絡機関として創立され、本年で100年を迎えました。

これも偏に、歴代の会長をはじめ、諸先輩各位のご功績とご列席の皆様方のご支援の賜物であり、衷心よりお礼申し上げます。

顧みますと、私たち町村は、苦難の時代も平穏な時代も国民生活にとってかけがえのない役割を担い続け、幾多の困難を乗り越えてまいりました。

この100年の前半は、満州・中華両事変から太平洋戦争を経て終戦を迎え、戦後の新憲法の基で新たな地方制度と市町村のかたちが構築され、我が国の政治経済、文化等すべてが新生・再出発し、奮闘努力を重ねた時代でありました。

飛躍的な工業発展の一方、公害や過疎・過密問題なども発生し、自治体の対応も時代の進展とともに複雑多様化する中で、全国の町村は、時代時代に直面する課題に立ち向かい、町村運営の安定と住民福祉の向上、地域の振興発展に邁進してまいりました。

現在までの半世紀は、昭和から平成に至る社会経済の発展と成熟の時代を経

て、バブル経済が崩壊し、令和の今日まで我が国経済の回復・再生への長い道のりが続くこととなります。

21世紀の幕開けから現在に至る20年は、私たち町村にとって、「地方分権の推進」とともに、「平成の大合併」に象徴される、苦渋の選択と厳しい行財政運営の時代でありました。「道州制導入」断固反対への取組も含め、本会の活動は、極めて重い使命を担い、数々の厳しい実行運動を展開いたしました。

国民一人ひとりが真の豊かさと安らぎを実感できる地域社会の実現を願い、この100年の歩みを振り返るとき、地方自治の最前線で住民とともに行動する私たち町村長の責任と役割の重さに思いを致します。

我が国はいま、新型コロナウイルス感染症の国難に直面し、政府・自治体、国民が一丸となって、この厳しい試練を乗り越えようと奮闘しています。ちょうど100年前、奇しくもスペインかぜが世界で猛威をふるった時代からこれまでの歳月、先人たちが幾多の試練を乗り越えてきた事績のうえに今日があり、私たちの町村があります。

この歴史をしっかりと胸に刻み、全国926町村長の皆様とともに、コロナ後社会を見据え、希望を持って子や孫の世代、更にはその先に続く世代に継承できる国づくり・地域づくりに全力で取り組んでいこうではありませんか。本日の式典が、その出発となることを切に願うところであります。

ご臨席の磯崎内閣官房副長官、金子総務大臣をはじめ、政府・国会並びに地方自治に関わるすべての皆様に重ねて感謝申し上げますとともに、今後とも温かいご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。